

CTLex. exe

操作マニュアル

目次

1	概要	2
1.1	基本機能	2
1.2	アプリケーションの目的	2
1.3	構成および環境	2
1.4	使用許諾条件	3
2	インストール	4
2.1	アンインストール	4
3	使い方	5
3.1	操作画面	5
3.2	ワークブックを開く	5
3.3	ワークブックを保存する	6
3.4	ワークブックを閉じる	6
3.5	セル入力設定画面	7
4	ワークシート	9
5	装置のセットアップ	10
5.1	入力装置の選択	10
6	プラグインについて	11
6.1	ケースレー・マルチメータ 2000	11
7	補足	12
7.1	実行ファイルの構成	12
7.2	設定ファイル	12
7.3	セル書き込み範囲の保存先	12
8	連絡先	13

1 概要

CTLex.exe は、Excel や Libreoffice のワークシートに、測定装置からの入力値を書き込むアプリケーションです。入力範囲などの設定は対象ワークシートに書き込まれるので、ワークシートごとに個別の設定を保持できます。

また、測定装置とのインターフェースはプラグインとしてアプリケーションとは別モジュールになっているので、作業に合わせて入力装置を切り替えることが可能です。

1.1 基本機能

このアプリケーションは Excel のワークシートに計測器からのデータを書き込みます。判定機能はワークシートのマクロで実現します。なお、書き込むセルの範囲は、以下のパターンになります。

- 任意のセルを起点とする矩形範囲(列数、行数は任意)1箇所
- 入力方向は右から左に進み、左の端に達すると直下の行の右端から始まります
- 行頭の左側、または行末の右側にタイムスタンプを書き込むことができます
- 任意のセルを起点として、現在行の参照データを書き込むことができます

1.2 アプリケーションの目的

測定装置からのデータを読み取り、ワークシートに記録する作業を軽減することができます。しかしながら、下記のような用途には適しません。

- 既存の検査用フォーマットに合わせて記入する
- 複数の測定装置からの入力を自動化する

これらの機能を実現しようとする、操作法も複雑になってしまいます。CTLex.exe は特定の矩形範囲にデータを単純に書き込むだけですが、そのぶん設定がシンプルで使いやすくなっています。

1.3 構成および環境

プログラム名:	CTLex.exe (CTLexLB.exe:Libreoffice 用)
対応アプリケーション:	Microsoft Excel (または、Libreoffice Calc, OpenOffice Calc)
使用可能な OS:	Windows XP (SP3) ~ Windows 8
.NET バージョン:	.NET Framework 4.0 (およびその互換環境)

1.4 使用許諾条件

- 本ソフトの複製・再配布について

CTLex.exe, CTLexLB.exe は、複製・再配布していただいても結構です。

弊社製の入力プラグインに関しては、複数のパソコンにコピーしてもかまいませんが、利用者は購入者のみとさせていただきます。（試用については、無制限です）

- 損害・および保証について

本ソフトを使用したことによる一切の損害（一次的、二次的に関わらず）に対し、弊社では責任を負いません。

- リバースエンジニアリング及び、改変について

これらは禁止事項とします。

- 著作権について

株式会社アール・エム計測器に帰属します。

2 インストール

アプリケーション登録の必要ありません。以下のファイルを任意のフォルダにコピーしてください。

CTLex.exe	Excel のワークシートに書き込むときに必要です。
CRLexLB.exe	Libre office または Open office のワークシートに書き込むときに必要です。
plg_CTLex.dll	入力プラグインを使用するための共通インターフェースです。
plg_xxx.dll	装置別の入力プラグインです。(xxx は装置の識別名になります)

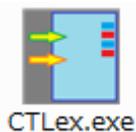
2.1 アンインストール

アンインストールは、フォルダごと削除するだけです。(レジストリには情報を残しません。)

3 使い方

3.1 操作画面

アイコンをダブルクリックすると、操作画面が開きます。



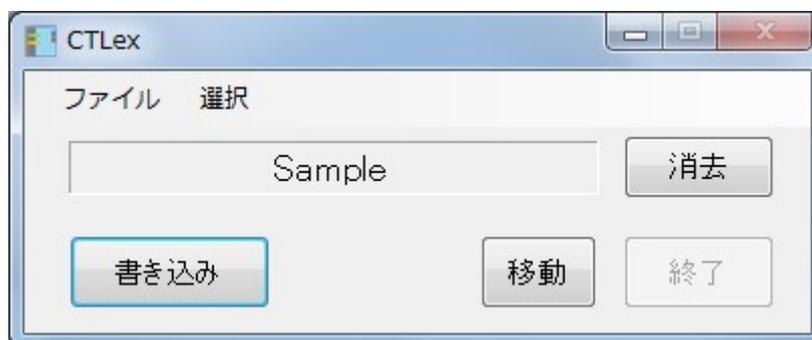
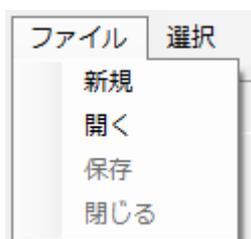
ファイル: ワークシートの操作

選択: 入力装置の設定・および書き込みセル範囲の設定

終了: アプリケーションの終了

3.2 ワークブックを開く

“新規”または“開く”をクリックすると、ワークシートが開いて操作画面にファイル名が表示されます。



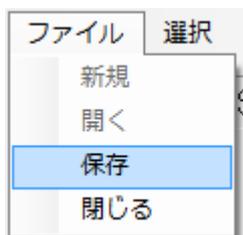
消去: 入力範囲のクリア

書き込み: 任意の書き込み（センサのタイミングを待たずにデータを書き込みます）

移動: 現在のセル位置に移動（途中から入力したいときに使います）

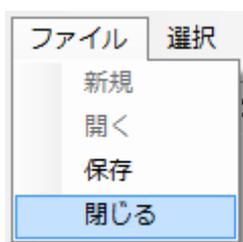
3.3 ワークブックを保存する

”保存”をクリックすると、保存ダイアログが開き名前を変えて保存することができます。



3.4 ワークブックを閉じる

”閉じる”をクリックすると現在のワークブックを上書き保存してから閉じます。



3.5 セル入力設定画面

”選択”・”セル範囲設定”をクリックすると、セル入力設定の画面が開きます。

セル入力設定

ワークシート名 DataSheet

セル列数 5

セル行数 100

最初のセル E8

入力遅延 (ms) 0

時刻の記録

しない 行頭 行末

参照データをセルに出力する

有効 E3

入力装置を切替える

有効 plg_K2000.dll

その他の設定

開くときデータをクリアする

設定シートを隠す

入力失敗のときの数値 -999

キャンセル OK

ワークシート名: 入力するワークシート名

セル列数: 入力矩形範囲の列数

セル行数: 入力矩形範囲の行数

最初のセル: 入力開始セル

入力遅延: 入力タイミングを遅らせる時間を設定します。

時刻の記録: 同じ行に時刻を出力することができます。

しない 時刻を出力しません

行頭 データの左のセルに時刻を出力します

行末 データの右のセルに時刻を出力します

参照データをセルに出力する:

通常のデータとは別の範囲に、参照用として現在行のデータを出力することが可能です。

有効 機能を有効にします

セル 入力開始セル

入力装置を切り替える:

ワークシート別に入力装置を切り替えたい時に使用します。この機能を使わないときはアプリケーションで設定した既定の入力装置が対象となります。

有効 機能を有効にします。

入力プラグイン コンボボックスから使用可能な入力プラグインを選択します

開くときデータをクリアする:

ワークシートを開いたとき、データ入力範囲のデータをクリアします。

設定シートを隠す:

この画面での設定は、“Settings” という名前のワークシートに保存されます。このワークシートを隠したい時にチェックします。

入力失敗の時の数値:

測定器からのデータ取得を失敗したときに返す数値を設定します。ワークシート側のマクロでこの値になったとき **NG** と評価させることができます。

OK: 設定を更新して反映させてから画面を閉じます。

キャンセル: 設定を更新しないで画面を閉じます。

4 ワークシート

サンプルのワークシートについて説明します。

B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
			DATA-1	DATA-2	DATA-3	DATA-4	DATA-5	HI	LO	OK/NG	
			-0.750	-0.829	-0.912	-0.985	-1.085			OK	
								HI	LO		
		TIME	DATA-1	DATA-2	DATA-3	DATA-4	DATA-5	-0.2	-1.1	OK/NG	
1		10:22:40	-1.145	-0.250	-0.340	-0.426	-0.512		NG	NG	
2		10:23:36	-0.284	-0.409	-0.497	-0.568	-0.643			OK	
3		10:23:40	-0.750	-0.829	-0.912	-0.985	-1.085			OK	
4											
5											
6											
7											
8											

参照判定: 製品1個につき測定箇所が5箇所ある場合の表示です。

HI, LO 判定で NG がなければ OK と表示します。

測定状況: 現在の入力状況と履歴が記録されます。

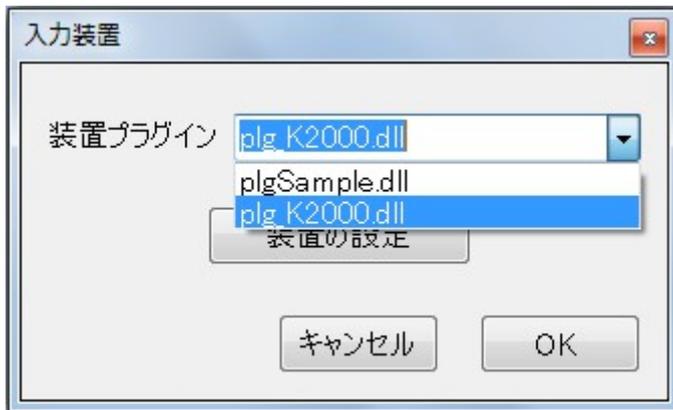
行の先頭に時刻が記録されます。

HI, LO 判定で NG がなければ OK と表示します。

5 装置のセットアップ

5.1 入力装置の選択

”選択”・”入力装置”をクリックしてください。 装置プラグインのコンボボックスで使用する入力装置のプラグインを選択します。



6 プラグインについて

現在は、ケースレー・マルチメータ 2000 用のみですが、その他の装置については開発中です。未対応の装置については、別途プラグイン開発用パッケージもありますのでご利用ください。

6.1 ケースレー・マルチメータ 2000

ケースレーのマルチメータと RS232C ケーブルで接続して使用します。

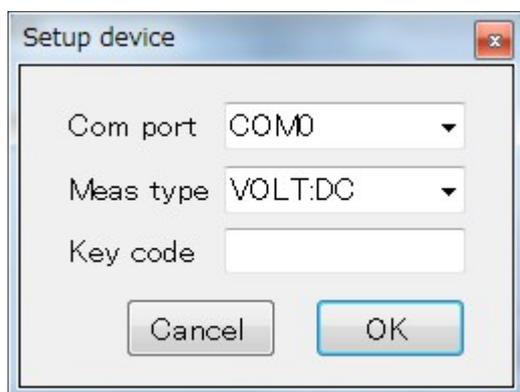


プラグインを利用するには、CTLex のメニュー・選択・入力装置をクリックしてください。

装置プラグインのコンボボックスで plg_K2000.dll を選択します。

機能の選択

装置の設定をクリックすると、マルチメータの機能選択画面が表示されます。



Com port のコンボボックスで、マルチメータを使用する番号を選択します。

通信条件はマルチメータ側で設定してください

ボーレート: 9600

データビット: 8

パリティ: なし

ストップビット: 1

デリミタ: CR

Meas type で、マルチメータの機能を選択してください。

制限解除

プラグインの試用中は、以下の制限があります。

- CTLex 起動後、15 分経過するとプラグインからの入力ができなくなります。
- ワークシートを開くとき、入力範囲のデータがクリアされます。

制限を解除するには、ベクターから購入して解除コードを取得してください。(解除コードは、ベクターからメールで自動で送られてきます)

解除コードを取得したら、Key code に解除コードを入力して OK をクリックしてください。再度この画面を開いて Key code の入力が表示されなければ、機能制限は解除されています。

7 補足

7.1 実行ファイルの構成

実行ファイルは 3 個で構成されています。インストールはこれらのファイルを任意のフォルダにコピーするだけです。

CTLex.exe:	アプリケーション本体
plg_CTLex.dll:	入力インターフェース
xxx.dll:	入力装置プラグイン (xxx は装置名称)

7.2 設定ファイル

アプリケーションの各種設定は下記のファイルに出力され、起動時に読み込まれます。テキストファイルですが、通常はエディタで直接編集しないでください。

CTLexCfg.xml:	使用する装置プラグイン名など
----------------------	----------------

7.3 セル書き込み範囲の保存先

Settings 画面の設定値は、ワークシート名 "Settings" のセル "A1" に書き込みます。この仕様により、ワークブックごとに設定を変えることができます。なお、"Settings" がないときは自動で追加します。（オプションで "Hide the settings" をチェックしている場合、このワークシートは表示されません。）

設定は XML 形式で記述されています。XML はブラウザが利用する HTML と似た形式で、データをタグで挟み込んでソフトウェアから識別しやすいようにしたものです。

<タグ名> データ本体 </タグ名>

テキストによる表現なので直接編集で値を変更することができます。（ただし、タグ名を間違えたりすると、設定が読み取れなくなりますので細心の注意が必要です。）

8 連絡先

製品についてのお問い合わせは、メールまたはホームページの「お問い合わせ」をご利用ください。

MAIL: office@rmks.jp

ホームページ: <http://www.rmks.jp/>

会社名: 株式会社アール・エム計測器

住所:

〒920-0953

石川県 金沢市 涌波 4-15-18